



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年1月29日

上場会社名 株式会社ドリームインキュベータ 上場取引所 東  
 コード番号 4310 URL http://www.dreamincubator.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山川 隆義  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理グループ長 (氏名) 上村 敏弘 TEL 03(5532)3200  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月8日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	14,665	14.4	11	△99.3	87	△94.6	150	△82.7
2018年3月期第3四半期	12,824	18.6	1,569	128.0	1,614	123.7	870	243.9

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 226百万円 (△72.3%) 2018年3月期第3四半期 816百万円 (65.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	15.34	13.69
2018年3月期第3四半期	89.55	87.87

(参考)

調整後経常利益 2019年3月期第3四半期 363百万円  
 2018年3月期第3四半期 1,944百万円  
 調整後親会社株主に帰属する四半期純利益 2019年3月期第3四半期 △15百万円  
 2018年3月期第3四半期 1,048百万円

(注) 当社は、当社の重要な子会社であるアイペット損害保険株式会社（以下、アイペット）に関して、普通責任準備金を未経過保険料方式により算定し、異常危険準備金繰入額の影響を排除した利益（調整後利益）を、損益実態を把握する上で有用な指標としております。参考では、調整後利益に基づく連結業績を開示しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	
2019年3月期第3四半期	23,325	13,434	13,434	46.8		
2018年3月期	19,368	11,646	11,646	54.4		

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 10,914百万円 2018年3月期 10,542百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	0.00	0.00	0.00	26.00	26.00
2019年3月期	0.00	0.00	0.00		
2019年3月期（予想）				—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無  
 2019年3月期の期末配当予想につきましては、未定としております。

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社グループの事業は、プロフェッショナルサービス事業及びインキュベーション事業から構成されております。プロフェッショナルサービス事業は比較的将来の予測が立ちやすい一方、インキュベーション事業の一部については売上高の多くが株式市場における株式売却によってもたらされることから、株式市況やIPO動向に伴って振幅します。従いまして、現時点において業績予想を合理的に行うことが困難であるため、開示を控えさせていただいております。

なお、現時点で将来の業績を予想するのに有用と思われる情報を4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しておりますので、ご参照下さい。

#### ※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動： 有

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 1社（社名）DIインドデジタル投資組合、除外 1社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年3月期3Q	10,323,700株	2018年3月期	10,300,600株
② 期末自己株式数	504,930株	2018年3月期	526,682株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	9,797,142株	2018年3月期3Q	9,721,131株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

（注）当社は、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」を導入しております。BIP信託口及びESOP信託口が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・調整後利益に関する説明

損害保険会社は、保険業法施行規則第70条1項1号に基づき、未経過保険料残高と初年度収支残高の大きい方を責任準備金として負債計上し、当事業年度の残高と前事業年度の残高の差分を繰入額として当期に費用計上します。

アイペットでは、現状、財務会計上は初年度収支残高によっていますが、当社ではアイペットの損益実態を把握する指標として未経過保険料方式による損益を重要視しております。その理由として、未経過保険料方式により算定された利益は、発生主義による利益と同額となるため、期間比較が可能となり経営実態を適切に反映していると考えております。一方で、初年度収支残方式は、収支相当の原則に立脚しており、当年度に係る保険料から保険金、事業費を差し引いた残額が、翌年度以降の保険金支払い等の原資になるという考え方であり、初年度収支残方式により算出された利益は、発生主義による利益とならないことから期間比較が出来ないと考えております。

また、上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社が存在しないため、損害保険会社を企業集団にもつ競合他社との比較の観点からも、投資家が当社の業績を評価する上で有用な情報として未経過保険料方式により算定された利益が、投資家に有用と考えております。

異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、収入保険料の一定割合を毎期積み立てる責任準備金の一種であり、大蔵省告示第232号第2条の別表で記載されている損害率を超える場合に、その損害率を超える部分に相当する金額を取崩すこととされています。アイペットは損害率が基準よりも低いため、収入保険料に3.2%を乗じた金額を毎期積み立てております。

そのため、アイペットについて、未経過保険料方式に異常危険準備金を加味した利益が、アイペットの経営実態を把握する上で有用な指標と考えており、それを基礎とした連結業績（調整後利益）は、投資家が当社の業績を判断する上で有用な情報と考えております。

・日付の表示方法の変更

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 営業の状況	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

(報告セグメントの変更について)

第1四半期連結会計期間において、従来、「戦略コンサルティングセグメント」の一部を構成していた連結子会社であるDream Incubator Vietnam Joint Stock Companyと「その他セグメント」に含まれていた株式会社DI Asia（旧称「株式会社DIマーケティング」。第1四半期連結会計期間に商号変更）を、アジア地域におけるサービス拡充を目的として経営統合したことに伴い、業績管理区分の見直しを行い、「戦略コンサルティングセグメント」に含めた上で「プロフェショナルサービスセグメント」と区分いたしました。

この変更により、当社のセグメント構成は、「戦略コンサルティングセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」から、「プロフェショナルサービスセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」となります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

### (1) 経営成績に関する説明

当社及び当社グループの当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は14,665百万円（前年同四半期比14.4%増）、経常利益は87百万円（前年同四半期比94.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は150百万円（前年同四半期比82.7%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間における報告セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(プロフェショナルサービス事業)

プロフェショナルサービス事業では、大企業や政府向けの戦略コンサルティング（特に、将来の成長を牽引するビジネスプロデュース（事業創造）支援や成長戦略立案支援に強み）、M&Aファイナンシャル・アドバイザー、経営幹部育成支援、アジア地域等における戦略コンサルティングや市場調査を提供しております。

プロフェショナルサービス事業（セグメント）においては、大企業への戦略コンサルティングが前年同四半期と比べて大幅に減少したことから、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,668百万円（前年同四半期は2,402百万円）、セグメント利益（営業利益）は277百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）1,146百万円）となりました。

(インキュベーション事業)

インキュベーション事業は、営業投資セグメント、保険セグメント、その他セグメントにより構成されております。

営業投資セグメントにおいては、新規投資活動として、提携先ベンチャーキャピタルと連携し、日本・アジア・米国を中心に投資を実行しております。また、当期に子会社として設立し、営業を開始した「DIインドデジタル投資組合」においてもインドへの投資を進めております。

既存投資先ベンチャーに関しては、当社が深く支援することで成長加速が見込まれるステージにおいて資金と人材を投入し、それ以降は売却を進めており、当第3四半期累計期間においては、複数件のトレードセールによる売却の他、投資先1社がIPOを果たした一方で、投資先2社の価値下落に伴い、営業投資有価証券の評価損及び投資損失引当金繰入額を計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,894百万円（前年同四半期は1,468百万円）、セグメント利益（営業利益）は50百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）861百万円）となりました。

保険セグメントとは、連結子会社であるアイペットが運営するペット向け医療保険を指します。同社は、2018年4月25日付で東京証券取引所マザーズに新規上場いたしました。当第3四半期連結累計期間において、ペット向け医療保険の加入件数は順調に増加し、売上高が拡大しました。以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,876百万円（前年同四半期は8,953百万円）、セグメント利益（営業利益）は338百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）196百万円）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より税効果会計における企業分類の変更等により、法人税等調整額を利益項目として637百万円計上しております。

その他セグメントには、フリーコンサルタントのマッチング・プラットフォーム事業を運営する株式会社ワークスタイルラボ（以下、WSL）が含まれております。当第3四半期連結累計期間においては、売上高は堅調に推移した一方で、事業拡大に向けた先行費用等が発生しております。以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は228百万円、セグメント損失（営業損失）は12百万円となりました。

以上の当社及び当社グループの売上をまとめると以下のとおりです。

区分	第18期 第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)		第19期 第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
プロフェッショナルサービス事業 (セグメント)	2,402	18.7	1,668	11.4
インキュベーション事業	10,422	81.3	13,000	88.6
(内訳)				
営業投資セグメント	1,468	11.5	1,894	12.9
保険セグメント	8,953	69.8	10,876	74.1
その他セグメント	—	—	228	1.6
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	△2	△0.0
合計	12,824	100.0	14,665	100.0

(参考) 当社は、当社の重要な子会社であるアイペットに関して、損益実態を把握する上で有用な指標として以下の調整を加味した利益を開示しております。

①普通責任準備金：当該金額の算定を初年度収支残方式から未経過保険料方式に変更

②異常危険準備金：繰入額の影響を排除

財務会計ベースの保険セグメント損益から調整後利益ベースの保険セグメント損益へ調整及び、調整後利益ベースでの連結業績は以下のとおりです。

なお、調整後利益は異常危険準備金の影響を除いて算定されるため、税効果会計における企業分類の変更による影響は小さくなり、調整後親会社株主に帰属する四半期純利益又は調整後親会社株主に帰属する四半期純損失は財務会計ベースと比べ減少しております。

	第18期 第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	第19期 第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
財務会計ベースの保険セグメント損益	196	338
①に関する調整額	42	△71
②に関する調整額(注)	286	347
調整後保険セグメント損益	526	613
調整後連結経常利益	1,944	363
調整後親会社株主に帰属する四半期純利益 又は調整後親会社株主に帰属する四半期純 損失 (△)	1,048	△15

(注) 戻入りの場合はマイナスとなります。

(2) 財政状態に関する説明

連結貸借対照表

当第3四半期連結会計期間における資産は23,325百万円（前連結会計年度末比3,956百万円増）、負債は9,890百万円（同2,168百万円増）、純資産は13,434百万円（同1,788百万円増）となっております。

前連結会計年度末比での資産の増加の主な理由は、運用資産の積上げによる投資有価証券の増加や、アイペットの税効果会計における企業分類の変更による繰延税金資産の増加等が挙げられます。

負債の増加の主な理由は、借入金の増加や、保険業法に基づく保険契約準備金の増加等が挙げられます。

純資産の増加の主な理由は、アイペットの新規上場に伴う公募増資により非支配株主持分が増加したこと、及び当社持分の変動による資本剰余金の増加等が挙げられます。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

プロフェッショナルサービス事業は、アジア地域等における戦略コンサルティングや市場調査での事業は拡大見込みである一方、国内における戦略コンサルティングの売上高が減少する見込みです。

インキュベーション事業の保険セグメントは、引き続き拡大傾向にあるペット保険市場を背景として安定的・継続的な成長を見込んでおります。

その他セグメントに含まれるWSLについては、単体ではすでに利益が出ておりますが、事業拡大に伴う先行的費用やのれん償却等が発生することから、連結業績への寄与は来期からになると見込んでおります。

営業投資セグメントにつきましては、投資先ベンチャーの内、トレードセール等による複数社の売却を見込んでおりますが、売上高が株式の売却によってもたらされることから、株式市況やIPO動向に伴い振幅します。そのため、通期業績の見通しは立てにくく、四半期毎に売上高が増減する状況が続くと考えております。

(4) 営業の状況

(生産実績)

当社及び当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

(受注実績)

当第3四半期連結累計期間における受注実績は次のとおりであります。

なお、営業投資セグメントにつきましては、受注という概念がございませんので記載しておりません。

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	前年同四半期比 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
プロフェッショナルサービス事業 (セグメント)	2,854	1,921	△32.7
インキュベーション事業	8,953	11,240	25.5
(内訳)			
保険セグメント	8,953	10,876	21.5
その他セグメント	—	364	—
合計	11,807	13,162	11.5

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 各セグメントの金額は、セグメント間の取引を含んでおります。

(販売実績)

当第3四半期連結累計期間における販売実績は次のとおりであります。

区分	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	
	金額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
プロフェッショナルサービス事業 (セグメント)	1,668	△30.6
インキュベーション事業	13,000	24.7
(内訳)		
営業投資セグメント	1,894	29.0
保険セグメント	10,876	21.5
その他セグメント	228	—
セグメント間の内部売上高又は振替高	△2	—
合計	14,665	14.4

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(投資実績)

証券種類	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)				当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)			
	投資実行高		期末投資残高		投資実行高		期末投資残高	
	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)
株式・出資金等	1,677	26	6,350	58	1,315	17	6,327	62
新株予約権等	—	3	0	11	—	2	—	8
合計	1,677	29	6,350	64	1,315	19	6,327	65

- (注) 1. 新株予約権等は、当社コンサルティングサービスの対価として発行会社から無償で取得している場合がありますが、上表においては、その際の金額をゼロとし会社数のみを記載しております。
2. 株式、新株予約権等を重複して投資を行っている会社があります。
3. 時価のあるものについては、取得原価を記載しております。
4. 上表には余剰資金の運用目的の有価証券及び投資有価証券は含まれておりません。
5. 当社グループは、未公開時点では投資をしていなかったPost-IPO企業の株式をIPO後に取得する場合がありますが、上表には当該投資金額及び会社数は含まれておりません。
6. 期末において保有している新株予約権等を全て行使した場合の株式取得価額の総額は、以下のとおりであります。

前連結会計年度	当第3四半期連結会計期間
197百万円	25百万円



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,299	6,244
受取手形及び売掛金	2,460	2,339
営業投資有価証券	6,661	6,143
投資損失引当金	△490	△151
たな卸資産	17	19
未収入金	23	125
その他	291	774
貸倒引当金	△28	△5
流動資産合計	15,235	15,489
固定資産		
有形固定資産	197	303
無形固定資産		
のれん	349	607
その他	368	1,078
無形固定資産合計	718	1,686
投資その他の資産		
投資有価証券	2,262	4,099
長期貸付金	78	96
繰延税金資産	385	1,023
その他	526	662
貸倒引当金	△36	△36
投資その他の資産合計	3,217	5,845
固定資産合計	4,133	7,835
資産合計	19,368	23,325

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	—	136
短期借入金	—	400
1年内返済予定の長期借入金	100	254
リース債務	8	8
未払金	531	475
保険契約準備金	5,560	6,388
支払備金	794	859
責任準備金	4,766	5,528
未払法人税等	556	266
賞与引当金	100	126
役員賞与引当金	—	22
その他	390	440
流動負債合計	7,247	8,518
固定負債		
長期借入金	225	1,036
リース債務	26	22
繰延税金負債	3	56
株式給付引当金	215	250
その他	3	6
固定負債合計	474	1,372
負債合計	7,722	9,890
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,940	4,952
資本剰余金	3,801	4,400
利益剰余金	3,158	3,047
自己株式	△942	△886
株主資本合計	10,958	11,513
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△308	△488
為替換算調整勘定	△106	△111
その他の包括利益累計額合計	△415	△599
新株予約権	64	57
非支配株主持分	1,038	2,462
純資産合計	11,646	13,434
負債純資産合計	19,368	23,325

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	12,824	14,665
売上原価	5,743	7,863
売上総利益	7,081	6,801
販売費及び一般管理費	5,511	6,790
営業利益	1,569	11
営業外収益		
受取利息	12	12
受取配当金	17	35
投資有価証券売却益	20	40
為替差益	1	2
貸倒引当金戻入額	5	—
その他	6	10
営業外収益合計	63	101
営業外費用		
支払利息	1	3
投資有価証券評価損	—	14
その他	16	6
営業外費用合計	18	24
経常利益	1,614	87
特別利益		
新株予約権戻入益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除却損	256	—
特別損失合計	256	—
税金等調整前四半期純利益	1,358	87
法人税、住民税及び事業税	496	257
法人税等調整額	28	△608
法人税等合計	525	△351
四半期純利益	833	439
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△37	289
親会社株主に帰属する四半期純利益	870	150

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	833	439
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△22	△209
為替換算調整勘定	6	△3
その他の包括利益合計	△16	△213
四半期包括利益	816	226
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	859	△33
非支配株主に係る四半期包括利益	△42	260

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年5月11日 取締役会	普通株式	30	3	2017年3月31日	2017年6月13日	利益剰余金

(注) 2017年5月11日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金0百万円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月10日 取締役会	普通株式	262	26	2018年3月31日	2018年6月12日	利益剰余金

(注) 2018年5月10日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金8百万円が含まれております。

2. 株主資本の著しい変動

当社の連結子会社であるアイペットが、2018年4月25日に東京証券取引所マザーズに新規上場いたしました。これに伴い同社にて公募増資等を行ったことから、当社持分が変動し、資本剰余金が599百万円増加しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が4,400百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッショナルサービス セグメント	営業投資 セグメント	保険 セグメント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,402	1,468	8,953	12,824	—	12,824	—	12,824
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,402	1,468	8,953	12,824	—	12,824	—	12,824
セグメント利益 又は損失(△)	1,146	861	196	2,205	—	2,205	△635	1,569

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△635百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッショナルサービス セグメント	営業投資 セグメント	保険 セグメント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,668	1,894	10,876	14,439	226	14,665	—	14,665
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	2	2	△2	—
計	1,668	1,894	10,876	14,439	228	14,668	△2	14,665
セグメント利益 又は損失(△)	277	50	338	666	△12	653	△642	11

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△642百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、従来、「戦略コンサルティングセグメント」の一部を構成していた連結子会社であるDream Incubator Vietnam Joint Stock Companyと「その他セグメント」に含まれていた株式会社DI Asia(旧称「株式会社DIマーケティング」。第1四半期連結会計期間に商号変更)を、アジア地域におけるサービス拡充を目的として経営統合したことに伴い、業績管理区分の見直しを行い、「戦略コンサルティングセグメント」に含めた上で「プロフェッショナルサービスセグメント」と区分いたしました。

この変更により、当社のセグメント構成は、「戦略コンサルティングセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」から、「プロフェッショナルサービスセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」となります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。